

世界遺産

「明治日本の産業革命遺産」を深掘り

薩摩の製鉄技術を訪ねる



日本の近代化をリードした集成館事業。他地域で行われていた大砲製造と一線を画していたのが、製錬から行われていた製鉄で、磯の仙巖園に隣接する鶴嶺神社は溶鉱炉跡が発掘されています。

これらの基礎となったと考えられるのが、領内各地で行われていた製鉄事業です。加治木の森山家は江戸時代から明治時代にかけて鑄物業で繁栄、幕末には磯の集成館で大砲の製造にも関わり、森山家の住宅のうち旧作業場は第1期集成館事業の建物を移設したものとも伝わります。そうした歴史も踏まえ、幕末の喧騒を想像しながら加治木のまちをゆっくり歩いてみましょう。

- 日時 令和7年1月13日（月祝）10:00-12:00
- 集合 9:50 までに加治木駅にお集まりください。
鹿児島方面からご参加の方は、9:00 鹿児島中央駅発-9:37 加治木駅着（片道 480 円）
霧島市方面からご参加の方は、9:14 国分駅発-9:36 加治木駅着（片道 230 円）
の列車を利用されると便利です。
- 主な見どころ ①森山家住宅 ②川畑道仁墓 ③加治木錢鑄造所跡
④加治木市街地の石造物など
- 案内人 東川隆太郎
- 定員 30名（達し次第締切）
- 参加費 200円（保険料）※JR乗車券等、交通費は個人にてご負担ください。
- 問合せ・申込先 NPO法人かごしま探検の会 099-227-5343 または



info@tankennokai.com にお名前・参加希望人数・ご連絡先を添えて1月8日（水）までにお申し込みください。
また左のフォームからお申し込みいただけます。

※この催しは鹿児島県「近代化産業遺産普及・啓発事業」の一環で行います。